

脊振山～若葉の頃

五月、脊振山に若葉の季節がやってきました。

空の中に、雲の湧き出す泉でもあるのでしょうか。1055メートルの脊振山山頂辺りは、霧に包まれていきます。

福岡市の水の源、ブナの林にも霧が流れ込んできました。林の中が白くなっていきます。暖かい空気を感じたブナの枝先では、固かった芽がほころび始めました。若々しいブナの若葉が、枝一杯に広がります。

ブナの林の下にはミヤコザサ。

湿気の多いところが好きなニリンソウ。ニリンソウは一本の茎に二輪の花を咲かせます。春先に花を咲かせ、もう実をつけている植物もありました。

ブナの林を流れている水のそばに、きれいな瑠璃色の花が咲いていました。ヤマドリソウです。

ブナの林から、水がこんこんと湧き出しています。

(何かがいるよ！)

ブチサンショウウオです。魚のように見えますが、4本の足があります。そして、くびの付け根のところには、えら。

ブチサンショウウオは、こどもの頃はえらで呼吸をして、おとなになると肺で呼吸する両生類です。

このブチサンショウウオは、脊振なんかのような高い山に住む珍しいサンショウウオの類なんですよ。

今見てもらったサンショウウオは、3年目のサンショウウオです。ブナ林の源流で産みつけられたサンショウウオの卵は、春先に孵って、だんだん大きくなっていきます。

5年目には全長14センチ、かなり大きなサンショウウオになります。でも今、非常に少なくなっています。

この脊振山でも以前は数箇所で見つけていましたが、なかなか見つけることはできませんね。

脊振山地の尾根筋では、湧き上がる雲と雲が激しくぶつかりあっています。たっぷりと水分を含んだ雲です。山で生きるすべての命は、この水の衣をまとっているのです。

ヒメミツバツツジも水滴をつけています。ミツバツツジの仲間は、一箇所から3枚の葉が出るのが特徴です。5月はじめの脊振の尾根は、このかわいい花たちが、鮮やかな花のトンネルを作っています。

ブナと並んで脊振山を代表するのは、常緑樹アカガシの林です。緑の葉をつけたまま冬を越したアカガシの木の枝先でも、若い葉が伸び始めていました。

たっぷりの水分と太陽の暖かさは、小さな生き物達にも元気を与えます。

スミレの花のまわりでは、アリ達が動き回っています。やがて作られるスミレの花の種には、アリの好物の脂肪の塊が用意されているのです。アリはそのごちそうをごほうび

に、スミレの種を運ぶのだそうです。

時間が過ぎるとともに、脊振山地の山麓に霧が集まり、夕方、そこには見事な雲海が広がりました。福岡の街は、雲の下です。

(ずーっと大切にしたいね！)